

# 西小倉めぐみ教会通信

発行者 日本キリスト教団 西小倉めぐみ教会  
〒611-0042 京都府宇治市小倉町西浦33-36  
Tel&FAX 0774-20-3071 <http://www.n-megumi.com/>

## 「共に歩む」

倉橋 剛

主の御名を讃美いたします。

全国の皆様からの暖かいお祈りとお支えを、まず心より御礼申し上げます。私たちの教会は教会員22名の内、約半数が精神しょうがい者の方であり、体調が悪い方も多く礼拝出席も10名に満たない日もある小さな教会です。けれど神さまからは、まさに社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいを持つ人たちの課題を多く担いつつ「弱い立場の方々と共に歩む教会」そして「平和の希求」という大きな使命を与えられている教会です。

ところで、こここのところ連日のように硫化水素による自殺の報道がなされています。個々には、当然様々な違った事情はあったのでしょう。けれど、ひとつ言えることは、そこに至るまでには間違いなく『孤独』というものがあったのではないのでしょうか。たとえ、たった一人でも「私のことを真剣に心配してくれている人がいる」と思えたら…と思うのです。福音書にある「善いサマリア人」のたとえ話の最後にイエスさまが「誰が追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」と問いかけられます。「その人を助けた人です」という答えに対し「行って、あなたも同じようにしなさい」とイエスさまは言われました。まさに私たちも私達の教会も、「あなたの隣人は？」と常に問われています。不登校やひきこもりがちな方々の居場所・フリースペース「おやすみ」や、今年の4月より一人暮らしの方や、孤独になりがちな地域の方々と楽しく歌を歌う「歌ごえ」を月一回始めました。今の生きづらい社会の中であって苦しい思いをしている方々が少しでも安らげる、憩える教会になれるようにと、心より願っています。

また先日、精神的に辛さを抱え中々礼拝に出席できない教会員を訪ね、家庭集会を持った時のことです。その方達にとっての教会ってどん

な存在なんだろう、と率直な思いを聞いてみました。すると次のような答えが返ってきました。(Mさん)「教会に行きたいけれど、遠くて、病気があるから中々みんなにも会えなくて…。忘れられてしまうかも知れない、と心配になるけれど教会に行ったら皆が温かく迎えてくれるから嬉しい。それと、同じしょうがいを持ってる人も、しょうがいに関係なくって明るく優しく声をかけてくれるから感謝しています。」また(Jさん)「教会に行ったら心が落ち着く。病気が治ってきているみたいに感じて…」そして(Sさん)「毎日のように教会の仲間が覚えて祈ってくれていることを嬉しく思うし、自分も仲間のことを思って祈っているから、教会へ行けなくても信じる事が出来る教会です。」とそれぞれ語って下さいました。

「仲間がいること」「祈り合えること」は、その人を決して『孤独』にさせません。特に精神的に苦しさを抱えて日々過ごしておられる多くの方々にとって、心の居場所として教会の存在意義は想像以上に本当に大きいものです。大切な心の拠り所なのです。

今年度もこのような小さい教会の働きを覚えていただき、「西小倉めぐみ教会を支える会」をご支援くださいますよう、心よりお願い致します。言い尽くせません願いと感謝を持って、皆様の上に神さまの祝福が豊かにありますようお祈り致します。

在 主



# 2008年前半・教会のあゆみ

## 〈倉橋牧師退院！〉 1月11日(金)

2007年12月21日、クリスマスイブ礼拝直前に「肺血栓塞栓症」で倒れられ、入院されていた倉橋牧師が退院されました。状況によっては命にも関わりかねない病気ではあったのですが、幸いにして軽症で、3週間ほどの入院で、後遺症も無く退院されました。

この間の礼拝は、近隣の宇治教会から前川裕牧師に来て頂いたり、役員が交代で奨励したりして、何とか途絶えることなく行う事ができました。教会にとって大きなピンチでしたが、神様のお支えで乗り越えられたことに感謝！！

## 〈イースター特別礼拝〉 3月23日(日)

今年のイースター礼拝は、病気等で毎週は礼拝に出席するのが難しいという仲間のうちの何人かが、久しぶりに顔を見せることが出来ました。出席者17名と、我が教会としては大変賑やかな礼拝、愛餐会をもつことが出来、喜びの一日でした。

「最近体調はどう？」「あの人は今日はどうしてるの？」とお互い声をかけながら、復活の主の力を得て、新たな思いで、共に信仰の歩みを進めていきたいと願っています。



## 〈教会総会〉 4月6日(日)

例年ならばイースター礼拝の午後に持っている教会総会ですが、今年はイースターの日が早かったためこの日にもたれました。

2008年度も「弱い立場にある方々と共に歩む教会」「平和の希求」を私たちの教会の使命と確認しました。また、役員選挙では少しだけ役員の顔ぶれが変わりました。

## 〈「歌ごえ」スタート！〉 4月24日(木)

この日より、当教会が併設している「西小倉めぐみ研修センター」主催で月一回第4木曜日に「歌ごえ」をはじめました。地域に開かれた教会として、地域の方々とのよい交流の場になるよう、また、孤独になりがちな方々の憩いの場になればと願ってははじめました。



## 〈信徒伝道週間を覚えての特別礼拝〉 6月15日

上鳥羽教会から柳 谷久美さん<sup>やなぎたに</sup>を迎えて「見えなくなっ<sup>やなぎたに</sup>て見えてきたこと」と題して奨励していただきました。柳 谷さんは、網膜色素変形症による中途視覚障害で、現在は左目の中心視野がわずかに残っているのみとのこと。

見えていた時から好きだったピアノ演奏で、教会の奏楽の奉仕を、見えなくなっ<sup>やなぎたに</sup>てからも続けたい。そのためにいくつものハードルを超えてこられたことに感銘しました。点字のできる人と点字の楽譜の読める人のどちらもを備えた人は極めて少なく、視覚障害者の音楽を切り開く役割を神様から与えられていることを語られました。

私たちも1つ1つの音をかみしめながら讚美することの大切さを教えられました。

礼拝後は、ショパンの「別れの曲」を、教会の大変弾きにくいピアノで演奏してくださいました。



# 教会員のひとこと

## サクラサイタ 小曽根一枝

「今年の桜、みれるかなあ…」と不安げに呟いていた夫の闘病も六ヶ月。何とか回復に向かっている。感謝の日々である。

思えば、中国で、“お父が倒れた”と息子からのメールを見た朝のびっくり！ 上海空港まで来るまで五時間にかかるところから、その日の家に帰国できた幸運。同僚達の協力で、チケット手配等が何もかもうまく運んだ。本当に神様に感謝。夫のうれしそうな顔に安堵した。病気は、激しい咳と血痰、下手すると咯血を伴うややこしいもの。入退院を繰り返しながらも快方に向かってきた。一時は“桜が見られないかも”と私も思った事もあった。

二人三脚の努力の結果と言う面もあるだろうが、全くの思いもよらない幸運もあり、そのたびに何度も神様に感謝した。

夫は病気になる前よりも、毎日を丁寧に生きているように見える。サクラサイタ。

## 教会役員からのひとこと

教会役員を18年もやっているわりには、はじめて京都教区総会に出席しました。普段、仕事に追われ消耗する日々の中で、じっくり教会や信仰について考えるよい機会になりました。教区内外で取り組まれている様々なのはたらきを覚えつつ、当教会としても相互に支援しあえる関係でありたく思いました。

ところで教区の新たな教会謝儀支援規則が可決され、来年度以降、当教会はますます厳しい経済状態になり、不安がつのところですよ。さらに自助努力に励むとともに、皆様方のご支援を引き続きお願いいたします。

(橋本 博)

私は神さまの不思議なお導きで3年前に当教会に再転入会させていただいた者です。一番に感じた事は、礼拝堂の隣の部屋で横になりながら、あるいは二階の部屋でマイクを通して礼拝を守っておられる方の姿であり、精神的に辛さ苦しさを抱えておられる方々が、「ここは私の心の居場所です」と言われたことです。弱さを抱える方々が教会の中心におられる。この小さな教会は、やはり大きな使命を神さまから与えられているんだなあ、と実感しています。多くの方々のお支えを本当に感謝しています。

(倉橋容子)

ベランダの姫沙羅の木に今年も花が付きました。はかなげな様子に心ひかれます。

はかなげに見える人と人のつながりが、思い通りに行かない現実、大きな力を与えてくれているのではないのでしょうか。自分1人で生きているのでは

ありません。つながりの思いを強くしたいものです。多くの方々の思いに深く感謝しています。

(門戸幸子)

人間は持って生まれた破れや弱さを抱えながら生きている。しかし、多数の人はこのことに気付かないし、自分自身の破れや弱さを知らない。それは体や心が健康であるかでしか本人は自覚しない。教会に集ってくる人はそのことに気づいている人たちではないだろうか。

自分の破れや弱さを自覚してはじめて他人のことを真剣に受け入れることが出来る。むしろ、自分の有り様を神様に告白せず他人を愛することは無理なような気がする。又、自分の弱さを知ってはじめて人に優しくなれるのだと思います。

教会に集う信仰生活とは有りのままで生きる、自分に正直に生きる、生かされていることを信じつつ生きることしかできません。しかし、そのことに意味があり、そのことこそが真実であるように思います。この先、出会い、交わりを共にする人たちにとって、自分の弱さを告白し合い、共に支え合いながら歩んでいきたいとします。

(団野利男)

オルガンの奏楽奉仕をはじめて今年で20年。情性と仕事の忙しさで年々減っていく練習の時間…。

そんな中、柳谷久美さんの奨励のなかの、「見えなくなってから奏楽奉仕の練習に時間がかかるようになったが、その分、一つ一つの音に注意を払うようになった」との言葉に深く反省。

(安達太郎)

# 「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を讃美いたします。

西小倉めぐみ教会は、1981年4月、多芸正之牧師による開拓伝道により歩みを始め、以来、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいをもつ人たち、とりわけ精神しょうがい者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。

2005年4月より倉橋剛牧師を後任牧師に迎えた後も、その基本姿勢に変わりはありません。

西小倉めぐみ教会では、教会に集う人たちが自身が精神しょうがい者であったり、その家族に精神しょうがい者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があるところです。

また、倉橋牧師招聘後の謝儀は、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂いておりますが、教区の財政状況も厳しく、援助額が年々大幅な減額となっています。そのため「西小倉めぐみ教会を支える会」ではこれまで、全国の方々から献金をいただき、家賃等牧師館に関わる費用に相当する額を（年間約150万円）を教会に捧げてきましたが、その額だけでは牧師家族の生活を支え切れなくなってきています。

同教会のこれからの社会的はたらきをご支援いただくことと併せ、このような経済的事情にどうかご理解をいただき、教会が牧師家族の生活を守れるようご支援いただきたくお願い申し上げます。

2008年6月

西小倉めぐみ教会を支える会

代表 山下茂雄（醍醐教会牧師）

## 今までに御献金いただいた方のお名前（敬称略・順不同）

（敬称略・順不同） 2007.12.10～2008.5.31現在

望月修治 目白町教会 難波 巧 君村千代子 近藤英子 妹尾健弘 竹内富久恵 大門義和 番町教会 琴浦教会 足立こすえ 芦屋山手教会 ト部康之・杉岡ひとみ 深沢馨光明園家族教会 山下茂雄 関雅人 俣田浩一 大宮教会 岡山教会 愛宕町教会 新井寛子 竹内宙 谷岡孝子 大澤宣 千葉教会 岡本教会 松代教会 塩尻アイオナ教会 埼玉通り教会 高橋博 彦根教会 千葉南教会 宝塚教会 新潟教会 聖峰教会 鈴蘭台教会 市川三本松教会 廣野智子 木安透 宮崎達夫 芳澤弘和 西千葉教会 緑野教会越谷教会 紫野教会 土佐教会 膳所教会 山田裕 古郝莊八 石川宣道・まなか 美唄教会 高の原教会 鳳教会 洛南教会 丸太町教会 鴨東教会 高槻教会 川上幹太 松戸教会 清水が丘教会 熱海教会 城陽教会 市川教会 野方町教会 能勢口教会 原宿教会 廣畑涙嘉 埼玉新生教会 南大阪教会 洛西教会 丹波新生教会 代々木上原教会 府上征三 塚本誠一 野村 治 野村南美代 宇治教会 芦屋岩園教会 横浜菊名教会 水口教会 頌栄教会 大久保幸子 武田栄夫 井上勇一 藤本真・横田督子 京都教会 京北教会 山下茂雄 与勝教会 林 栄子 岩城澄子 田中 晁・千栄 小曾根一枝 杉本節子 団野利男・明日香 橋本 博 門戸幸子 春田繁則・三菜子 倉橋 剛・容子

（137件 計 750,800円）

●これらの献金は、牧師館の家賃支払いに用いさせていただきました。ご支援ありがとうございました。

●教会のホームページをご覧ください！！

西小倉めぐみ教会のホームページが出来ています。まだまだ内容はこれからですが、これから充実させていく予定です。教会通信の1号から4号までも掲載しています。是非一度ご覧ください。アドレスは[www.n-megumi.com](http://www.n-megumi.com)です。

また、不登校やひきこもりがちな子ども達、若者達のフリースペース『おやすみ』のホームページもあります。アドレスは[oyasumi.info](http://oyasumi.info)です。こちらの方も併せてよろしくお願いします。